

ご協力いただいた乾癬の患者さんへ

研究報告 2020-2021

NPO 法人西日本炎症性皮膚疾患研究会

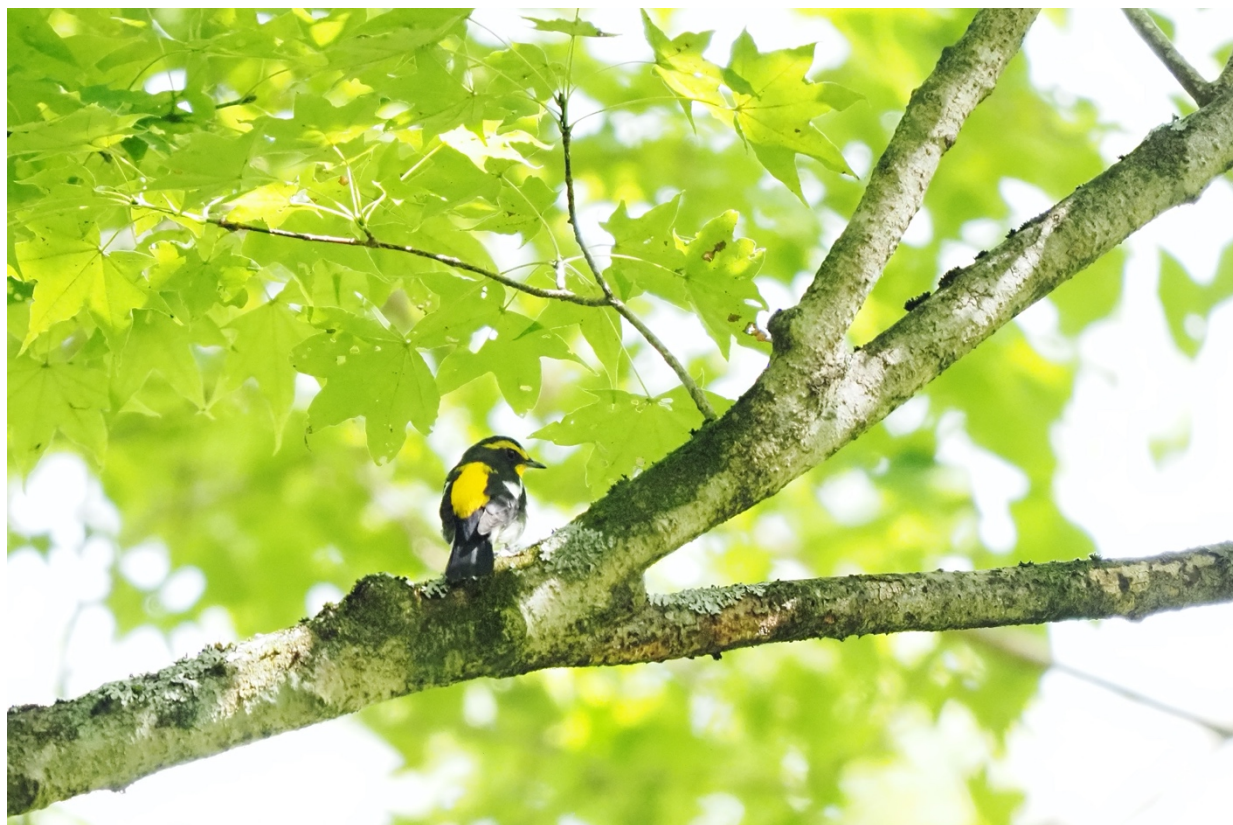


Photo by Shinichi

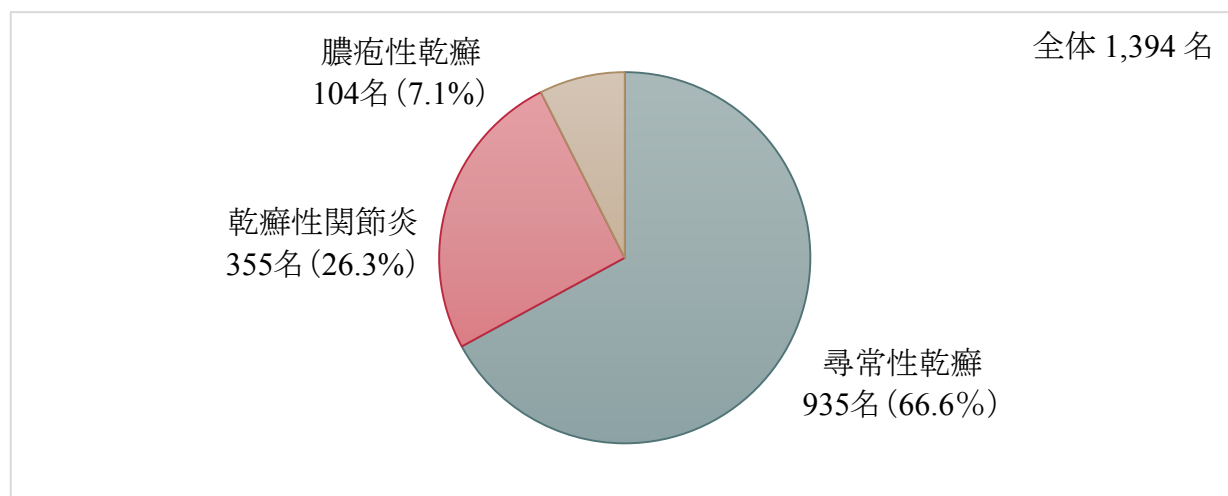
これまでに1,394名の方にご協力いただきました

乾癬の患者さんを対象とした大規模調査は2年目に入りました。2020年12月までに1,394名の方にご協力をいただきました。この場を持ちまして深くお礼を申し上げます。昨年に引き続き、研究報告をいたします。このデータが皆さんの乾癬治療のヒントとなれば幸いです。

年1回の継続調査(アンケート)にぜひご協力ください

今回、年1回の継続調査(アンケート)のご協力をお願いいたします。現在の乾癬の病状や、治療の内容について調査し、結果は来年ご報告いたします。

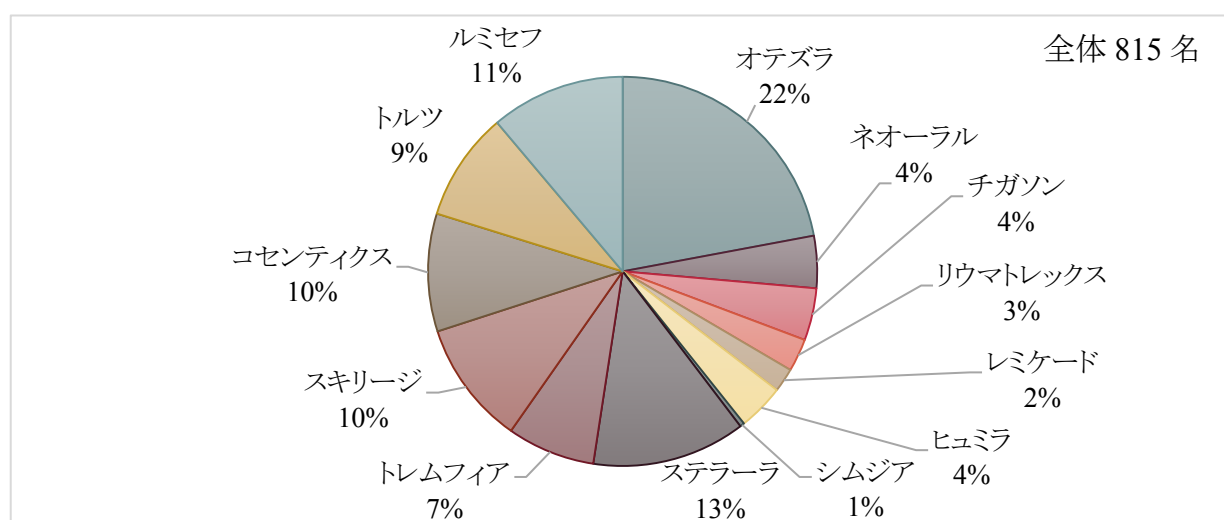
乾癬の病型(タイプ)



尋常性乾癬になった年齢は平均 38 歳、乾癬性関節炎になった年齢は平均 48 歳でした。

尋常性乾癬になって 7 年から 10 年で関節炎が起こることが多いようです。夜寝ている時や椅子から立ち上がる時に腰が痛い、指がソーセージのように腫れているなど、関節が痛む時には皮膚科やリウマチ科で相談してくださいね。

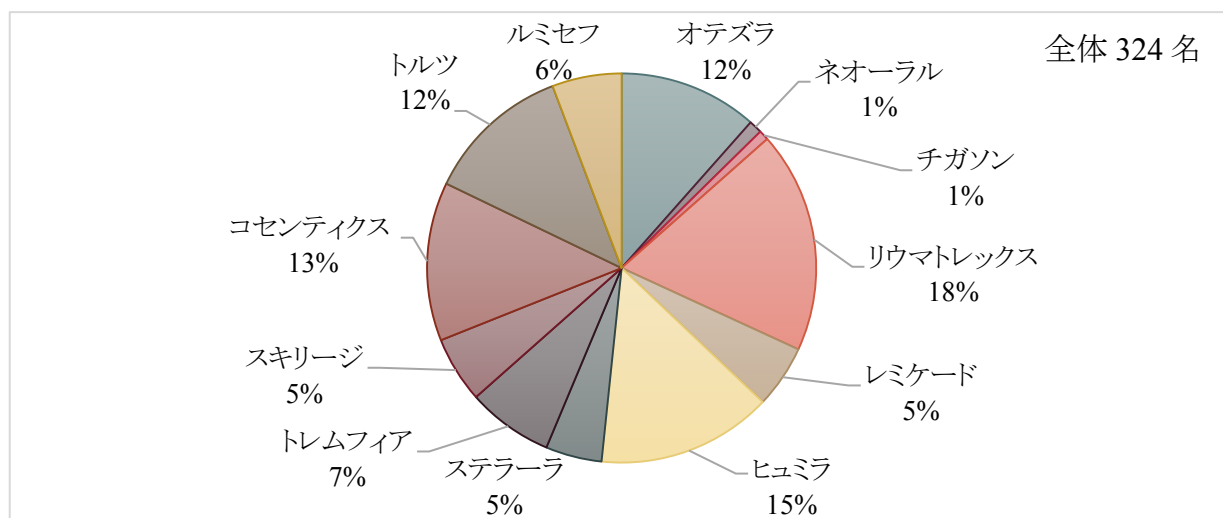
現在の乾癬の全身治療(尋常性乾癬)



乾癬の全身治療(内服・注射・点滴治療)を行っている方は 1,231 名でした。

尋常性乾癬ではオテズラ、IL-12/23 のステラーラ、IL-23 阻害薬のトレムフィアとスキリージ、IL-17 阻害薬のコセンティクス、トルツ、ルミセフが多く使用されていました。

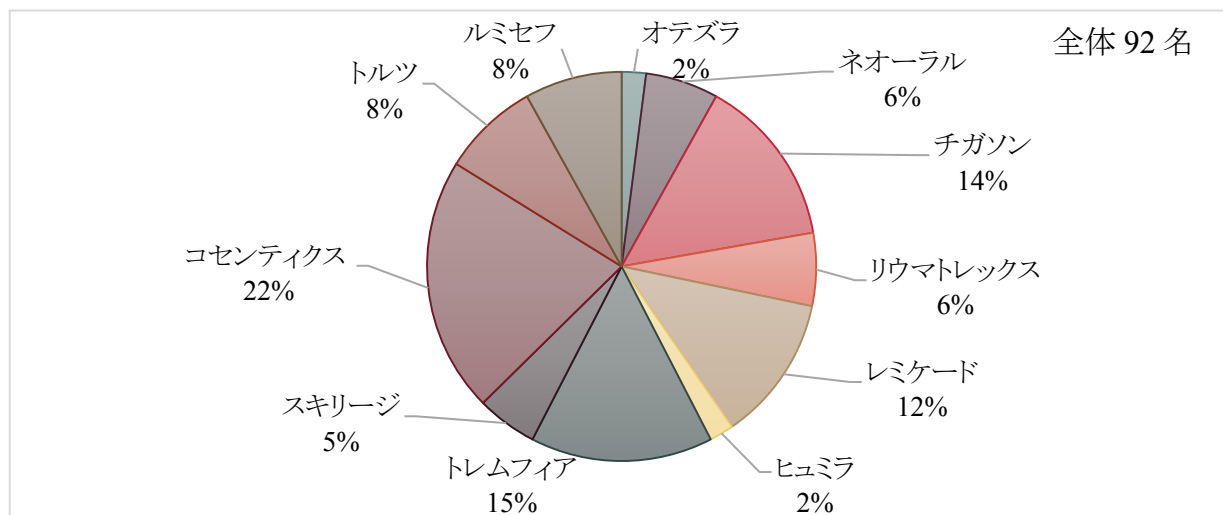
現在の乾癬の全身治療(乾癬性関節炎)



乾癬性関節炎ではオテズラ、リウマトレックス(メトレキサート)、TNF α 阻害薬のヒュミラ、IL-17 阻害薬のコセンティクスとトルツが多く使用されていました。

リウマトレックスと生物学的製剤を一緒に使用している方も多くみられました。

現在の乾癬の全身治療(膿疱性乾癬)



膿疱性乾癬ではチガソン、TNF α 阻害薬のレミケード、IL-23 阻害薬のトレムフィア、IL-17 阻害薬のコセンティクスが多く使用されていました。

チガソンは昔からあるお薬ですが、尋常性乾癬で紫外線治療の有効性を高めたり、膿疱性乾癬の治療に多く使用されたりとまだまだ現役です。

研究協力機関

(2021 年 10 月時点)



NPO 法人西日本炎症性皮膚疾患研究会の HP ができました。
HP では理事長挨拶や事業案内、研究報告書のバックナンバーを
見ることができます (<https://npo-wjpr.com>)。



発行日:2021 年 10 月 1 日

作成者:NPO 法人西日本炎症性皮膚疾患研究会 鶴田紀子(北九州市立八幡病院)

研究会の活動は、日本乾癬学会や製薬会社からの寄付によって運営されています。
病型別に使用者が多い薬剤を紹介しましたが、特定の薬剤の使用を促すものではありません。